

ニューズレター 72

2022. 7. 31

経済社会学会 The Society of Economic Sociology

巻頭言 第58回全国大会のご案内 自著を語る 経済社会学を教える 部会報告 新入会員自己紹介 議事録 ホームページのご案内 会員異動 年報自由投稿論文募集

巻頭言 企業社会と経済社会学のリアリティ

廣瀬 毅士

巻頭言といえば大ベテランの先生方が書かれるものと思っていましたので、会員歴もさほど長くない私が執筆するのは恐懼の極みです。とはいえ何度か学会年報に論文を載録して頂き、また東部役員に任ぜられていくつかの学会会務に携わりましたので、今では最も愛着のある学会です。

私はこの学会に入会する 2009 年以前は企業人およびフリーランスとして、マーケティング実務・コンサルタント業務に従事していました。クライアントはグローバル企業であったり業界の国内トップ企業であったりしたので随分面白い経験をしましたし、各領域の実務者や企業研究者のコミュニティからは新たな知的好奇心を刺激されました。しかし、ここに社会学というピースをはめ込めば...と思うこともありました。

たとえば、あるとき GMS や CVS という業態が現れて流通の世界に革命が起きます。それによって消費者個人の購買行動が一変し、社会全体のレベルでも消費に関する意識が変化した...という説明が多く局面でなされますが、ではなぜ GMS や CVS という業態の誕生を社会が必要としたのかという議論は少なくとも実務者レベルではされません。多くの場合、この革命は当該市場の競争環境を規定する与件であって、日々ライバル企業に勝つ戦術を考える実務者にとっては既に生じた外的要因・外部環境の変化だからです。

しかし社会学の立場からすれば、新しい業態の誕生を要請した当時の社会変動にこそ興味を惹かれます。その社会変動が経済社会にもたらす他の変容にはどのようなものがあるだろうか、ということ予測できるかもしれないからです。結局のところ企業社会での実務にあっても、経済現象を分析する考え方の根本にあったのは社会学だったということになります。

私の現在の勤務校はeラーニングによる通信制の大学で、国内だけでなく海外在住の受講生がいますし、開学の理念で1つの柱とした「社会人の学び直し」に呼応して、入学してくる年齢層も多様です。所属学部は情報系ですが「経済社会学」など社会学系の専門科目も多く配置しています。学生とオンラインで話すこともあります。彼らは「社会学は仕事など社会経験や年齢を重ねた方がむしろよく理解できる部分が多い」と言います。私

も全く同感ですが、社会学に感じるリアリティにおいて彼らが上回る可能性も大きいという事です。教員の方こそ一層の精進が必要のようです。 (東京通信大学)

第 58 回全国大会のご案内

大会準備委員長 水原俊博 (信州大学)

経済社会学会第 58 回全国大会は、「科学技術と経済社会」を大会テーマとして、2022 年 9 月 3 日 (土)、4 日 (日)、信州大学松本キャンパスにて開催されます。

- 大会会場：信州大学松本キャンパス (棟・教室の詳細は調整中、確定次第、下記の大会サイトで公表予定)

松本キャンパスマップ：<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/guide/matsumoto/>

- 大会事務局：信州大学人文学部 水原研究室気付

経済社会学会第 58 回全国大会事務局

TEL：080-5173-7269, Email：soes22@shinshu-u.ac.jp

大会サイト (報告要旨集, 発表原稿, 大会プログラム, 随時更新)

：<https://sites.google.com/view/soes2022/home>

- 参加費：3,000 円

交通アクセスと宿泊について

- ・ 信州大学松本キャンパスへの交通アクセス：<https://www.shinshu-u.ac.jp/access/matsumoto/>
- ・ 松本バスターミナル (松本駅お城口徒歩 2 分) ⇔ 「大学西門」, 130, 55, 32 路線バス 15 分, 200 円
(松本空港⇔松本バスターミナル, シャトルバス 30 分, 650 円)
- ・ 九州, 四国, 東北, 札幌, 関西からは空路で松本空港, あるいは以下のとおり県営名古屋空港 (小牧) 経由が便利かもしれませんが (航空券の手配はお早めに)。県営名古屋空港⇔勝川駅：25 分 (バス), 勝川駅⇔千種駅：12 分 (中央本線, 普通), 千種駅⇔松本駅：2 時間 (特急しなの)
- ・ 宿泊は松本駅お城口・松本バスターミナル周辺, 松本城近辺 (松本駅お城口徒歩 5～10 分, 大名町, 伊勢町, 本町など) のホテルがバス移動で便利です。観光シーズンのため, お早めにご予約ください。

- 昼食：松本キャンパス近隣, 松本市街の飲食店, コンビニなどをご利用ください

- 懇親会：開催しません

新型コロナウイルス感染対策について

松本市 (松本圏域) の新型コロナウイルス感染警戒レベル 3, 信州大学の行動基準レベ

ル3（警戒）（2022年6月末現在）。これに対応する信州大学、同人文学部の行動基準として、ご面倒をおかけすることになり大変心苦しく存じますが、以下の点についてご留意ください。

- ・ 少しでも風邪の症状や倦怠感、味覚・嗅覚異常があれば、松本市への移動、大会参加をお控えください。報告者、討論者、座長の方は大会事務局（soes22@shinshu-u.ac.jp）までメールでご連絡ください。
- ・ 松本滞在中に諸症状の疑いがあれば、大会参加をお控え頂き、大会事務局（080-5173-7269）、松本市保健所（0263-47-5670、24時間受付）にご連絡ください。
- ・ 信州大学のキャンパス内、松本市街では手指消毒を徹底し、不織布マスクをご使用ください。屋外で2m以上の距離を確保できればマスクをとってかまいません。
- ・ 信州大学の施設内では「三密」、廊下での会話を避け、定期換気にご協力ください。
- ・ 信州大学の施設内では原則として飲食はお控えください（キャンパス内屋外ベンチなどでは可）。飲食は松本キャンパス近隣（徒歩、美須々交差点付近、やまびこ道路沿い、浅間温泉街など）、松本市街（バス移動）の飲食店、コンビニなどについて、事前にネット検索、駅やホテルのガイドなどでお調べ頂き、ご利用ください。
- ・ 松本市街において、同居家族以外の人との会食は同一テーブル4人以下かつ2時間以内でお願いします。

■ 補足

今後の社会状況によっては通常とは異なる形態での開催（オンライン大会）もあり得ます。その最終判断は8月末までにする予定です。（プログラム委員会）

■ 大会プログラム

- 共通論題：各報告 30 分，各予定討論 15 分，一般討論 30 分
- 準共通論題・自由論題：報告 30 分，予定討論 10 分，一般討論 10 分

第1日 9月3日 (土)			
	A会場	B会場	C会場
第1報告 10:00-10:50	A1 自由論題 アイデンティティ効用と監視 資本主義 報告者：阪本俊生 (南山大学) 討論者：畑山要介 (豊橋技術科学大 学) 座 長：本柳亨 (立正大学)	B1 自由論題 孤独と孤立をめぐる社会問題 と概念的検討 報告者：石田幸生 (亜細亜大学) 討論者：古市太郎 (文京学院大学) 座 長：恩田守雄 (筑波学院大学)	C1 自由論題 ドイツの依存症分野に関する 福祉多元主義の考察——セルフ ヘルプグループを起点とし て 報告者：豊山宗洋 (大阪商業大学) 討論者：小林甲一 (名古屋学院大 学) 座 長：井川昭弘 (八戸学院大学)
第2報告 11:00-11:50	A2 自由論題 「欧州 2020」戦略から考える地 域共生社会の課題 報告者：渡邊幸良 (同朋大学) 討論者：村上寿来 (名古屋学院大 学) 座 長：小島秀信 (同志社大学)	B2 準共通論題 【英語】 A Study on Leadership of the Fourth Industrial Revolution: With Special Focus on Leadership Development Programs 報告者：アルマイ・ヤーセル (大阪産 業大学・院) 討論者：高橋一正 (名古屋大学) 座 長：石田幸生 (亜細亜大学)	C2 自由論題 わが国の医療保障と医療提供 体制の構築に関する一考察 ——占領期の医療政策をめぐ って 報告者：市川勝 (辻村外科病院) 討論者：山岡淳 (大阪成蹊大学) 座 長：川満直樹 (同志社大学)
11:50-13:20	昼 食		
	会場 (調整中)		
13:20-13:50	会長講演 小林甲一 (名古屋学院大学) 「『社会的なもの』の経済社会学と社会政策論」		
13:55-15:30	共通論題 「科学技術と経済社会」 座 長：織田輝哉 (慶應義塾大学)・豊山宗洋 (大阪商業大学) 第1報告：阿部孝太郎 (小樽商科大学) 「経済・経営における知識のあり方——「専門知」と「集合知」の 対比を中心に」 第2報告：内種岳詞 (愛知工業大学) 「社会システムのモデル化とサービスのスマート化に向けて」 第3報告：稲葉陽二 (日本大学) 「AIと社会関係資本——新しいコモンズをどう守るか」		
15:40-17:00	共通論題 予定討論 第1討論：平手賢治 (岐阜協立大学) 第2討論：小田中悠 (東京大学) 第3討論：鈴木純 (神戸大学) 共通論題 一般討論		

第2日 9月4日(日)

第2日 9月4日(日)			
	A会場	B会場	C会場
第3報告 10:00-10:50	A3 準共通論題 デジタル化と仮想消費——メ タバースの発展可能性と光と 影 報告者：鄭舜玉（園田学園女子大 学） 討論者：徐天堯（愛知大学） 座 長：寺島拓幸（文京学院大学）	B3 自由論題 クリスチャン・リベラズムの本 質，深化，基盤 報告者：平手賢治（岐阜協立大学） 討論者：佐々木亘（鹿児島純心女 子短期大学） 座 長：永合位行（神戸大学）	
第4報告 11:00-11:50	A4 自由論題 市民権の売買とウェルビーニ ング 報告者：橋本努（北海道大学） 討論者：大野正英（麗澤大学） 座 長：田中人（山陽学園大学）	B4 自由論題 ケイパビリティ・アプローチと 幸福——アキナスの幸福論 を中心に 報告者：佐々木亘（鹿児島純心女 子短期大学） 討論者：永合位行（神戸大学） 座 長：鈴木康治（第一工科大学）	
11:50-13:20	昼 食		
	会場（調整中）		
13:20-13:50	高田保馬賞受賞講演 間々田孝夫（立教大学）「今，消費研究はどんな意味をもつのか？」		
13:50-14:30	会員総会		
	A会場	B会場	C会場
第5報告 14:40-15:30	A5 自由論題 ソーシャル・キャピタルは国際 移民の社会統合を促進させる のか——首都圏1都4県調査に 基づいて 報告者：戸川和成（千葉商科大学） 討論者：山本圭三（摂南大学） 座 長：伊東眞理子（東京福祉大 学）	B5 自由論題 トーマス・ヒル・グリーンとマ ーサ・ヌスバウム——卓越性と ケイパビリティ 報告者：竹口隼人（神戸大学・院） 討論者：上沼正明（早稲田大学） 座 長：宇佐見義尚（板垣與一記 念館）	C5 ラウンドテーブル コロナ禍で消費社会は変容し ているのか？——清潔・健康・ ひとり 報告者：鈴木康治（第一工科大学） 報告者：本柳亨（立正大学） 報告者：野尻洋平（名古屋学院大 学）
第6報告 15:40-16:30	A6 自由論題 職場における共同と共食の関 連——計量データを用いた検 討の試み 報告者：山本圭三（摂南大学） 討論者：戸川和成（千葉商科大学） 座 長：廣瀬毅士（東京通信大学）	B6 準共通論題 デジタル・エコノミー時代にお ける「善用されるテクノロジー」 に関する研究——中国の 「快手ショートムービー」の事 例分析を中心に 報告者：徐天堯（愛知大学） 討論者：鄭舜玉（園田学園女子大 学） 座 長：藤岡真之（弘前学院大学）	
16:30	閉 会		

自著を語る

稲葉陽二編著

『ソーシャル・キャピタルからみた人間関係 ——社会関係資本の光と影』

(日本評論社、2021年)

稲葉 陽二

社会関係資本は従来好ましい影響をもつとして研究対象とされることが多かったが、本書は社会関係資本の負の側面を描いたものである。稲葉(2005)では社会関係資本を「心の外部性を伴った信頼・規範・ネットワーク」と定義している。外部性とは当事者以外の第3者にまで及ぼす影響を意味しているので、第3者にとって好ましい影響をもつ正の外部性と悪影響を及ぼす負の外部性がある。したがって本書でいう「光と影」とは正の外部性と負の外部性をさしているが、本書の大部分は負の側面を扱っている点で類書を見ないと考えている。

ただし、社会関係資本が負の側面を持つ点は、早い時点から社会関係資本論者が指摘していた。たとえば、社会関係資本の概念を理論化した James Coleman (1988) は「すべての社会関係資本が、個人であれ、団体という行為者であれ、その構造内における行為者の何らかの行為を促進する」と述べたあと「ある行為を促進するうえでは価値ある社会関係資本であっても、他の行為の促進には役立たなかつたり、むしろ有害であつたりすることがある。」(邦訳 209, 下線は稲葉付記)としている。また、コールマンの影響を受けた Robert Putnam (1993) はイタリアの州政府が南部では腐敗しているのに、中部北部では企業のように効率的に運営されている点についての比較研究であるから、腐敗している南部の州政府の部分は社会関係資本の負の側面をあつかっていた。

さらに付言すれば、本書が社会関係資本の負の側面に焦点をあてたのは、負の側面を認識す

ることが、「生きづらさ」の軽減に役立つと考えたからでもある。我々は様々な社会関係資本の中に身をおいている。社会関係資本は常に光と影の両面があり、なかなか自分の思い通りにいかない。しかし、だからといってそれを全部個人で背負い込むことは本来おかしい。なぜなら、責任のかなりの部分は、社会の理不尽、現場の理不尽に起因することは、社会関係資本を分析してみれば明らかだ。本書は「生きづらさ」が社会の理不尽と現場の理不尽によるのはコロナ禍で一層明らかになっており、我々はその理不尽を取り除くように制度を変えなければならない、という思いも 11 人の共著者全員に共有されている。(日本大学)

(参考)

Coleman, James (1988) *Social Capital in the Creation of Human Capital*, *American Journal of Sociology*, 94, pp. S95-120. 金光淳訳「第6章 人的資本の形成における社会関係資本」野沢慎司(編・監訳)『リーディングスネットワーク論 家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房(2006) pp. 205-238

Putnam, Robert (1993) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press.

「経済社会学」を教える

本柳 亨

私が所属する学部は経営学部である。経営学は「戦略経営」「マーケティング」「会計」「情報システム学」の4つの領域に分けることができるが、私はマーケティング系列の教員として配属されている。学生時代は、本学会で会長を務めたこともある田村正勝先生のご指導のもとで「社会哲学」を学んできたが、まさか経営学部でマーケティング系列の教員になるとは予想もしなかった。おそらく経営学の4つの領域のど

ここに配属してもしっくりこないという理由で、消去法的にマーケティング系列に配属されたのであろう。予期せぬ形でマーケティングの教員となったわけであるが、経営学部の講義ではマーケティング的な内容をほとんど教えていない。付け焼き刃の知識で私がマーケティングを教えることは、大学も学生も求めていないと考えたからである。

私の担当科目は「消費社会論」と「ビジネスと社会」である。これらの科目では、社会学でもない、経済学でもない、経営学でもない、哲学でもない、専門のはっきりしない学問を教えている。たとえば、専門科目の「消費社会論」では、渋谷近郊に描かれたグラフィティという文化現象について、歴史的背景や地域的要因を検証し、ストリート文化の意義を解説している。

考えてみると私の学問の道は、常に専門領域がはっきりしないものであった。大学時代の学部は社会科学部であり、ゼミは社会哲学であり、初めて所属した学会が経済社会学会である。一つの専門を極める学問に憧れつつも、自分の専門は何なのかを絶えず問い直し、多様な分野を横断する学問を追究してきた。専門領域に縛られない心地よさと、何者でもない気軽さを身に纏いながら、学生の知的好奇心を刺激する講義を目指していきたい。(立正大学)

部会報告

東西合同部会報告

・日時：2022年6月18日(土) 13:30~14:30
・会場：東京福祉大学名古屋キャンパス
報告者：大野正英先生(麗澤大学)
報告タイトル：「日本型経済倫理の可能性」

(恩田守雄)

東部部会報告

※報告者を募っておりましたが調整が間に合わず、予定されていましたが東部部会は中止とさせていただきます。

(大野正英)

西部部会報告

日時：2022年7月2日(土) 14時~

対面で開催

場所：同志社大学今出川キャンパス扶桑館3階307教室

・14時~

研究報告「構造的空隙理論の最先端」

報告者 安田雪先生(関西大学)

討論者 金光淳先生(京都産業大学)

・15時頃~

特別講演「科学者マイケル・ポランニーとその科学哲学」

講演者 中島秀人先生(東京工業大学・非会員)

出席人数 19名

(小島秀信)

部会報告要旨

東西合同部会報告要旨

日本型経済倫理の可能性

大野 正英

本格的に学問としてのビジネス・エシックス(経営倫理)が日本に導入されてからおおよそ30年が経過し、その考え方は広く経済界に浸透した。一方でそれ以前から日本企業には経済活動

において倫理性を重視する理念が受け継がれてきたにもかかわらず、それらと欧米由来のビジネス・エシックスとの間のつながりについてはあまり議論されることがなかった。本報告は「日本型経済倫理」の特性を論じ、ビジネス・エシックスとの比較を通じて現代社会における可能性を追求しようとするものである。

ここでいう「日本型経済倫理」とは、石田梅岩らの江戸時代の思想に端を発し、広く商家の家訓や明治以降の経営者らに受け継がれてきた倫理思想を意味している。その特徴として、勤勉や儉約、正直といった職業倫理、職分の思想、公益性の重視、社会的価値を提供することで後から利益が得られるという利益観、永続性の重視、報恩の観念等が指摘できる。これらの根底には、家を原型として企業を捉える共同体主義的な観念が存在していると捉える。その場合、企業、企業間集団、社会全体という重層的な共同体として捉えることができる。

一方でこのような共同体的意識は、閉鎖性や個人の人権の軽視といった欠点を内包しており、企業不祥事の温床ともなってきた。ビジネス・エシックスの導入はこうした問題点を是正する上で有効に機能しており、特に人権や法令順守、ガバナンスという観点からの企業の取り組みは急速に進んだ。一方で現在世界のビジネス界においては、単に不祥事を防止するという段階から積極的に社会課題の解決に企業が取り組むという動きが進行している。日本型経済倫理における社会全体の利益を優先する考え方はこうした動きに合致するものであり、その価値をもう一度評価して日本から世界に向けて発信する可能性を模索したい。(麗澤大学)

東部部会報告要旨

※部会報告が中止となりましたので、報告要旨は非掲載とさせていただきます。

西部部会報告要旨

※西部部会は開催時期が当初よりずれ込みましたので、部会報告要旨については次号ニューズレターに掲載させていただきます。

新入会員自己紹介

【陳 森】

東京福祉大学社会福祉学部の陳森と申します。この度、貴学会理事の伊東真理子先生、幹事の近藤重晴先生、両先生のご推薦をいただきまして、新規入会をさせていただきました。研究分野は消費者行動論で、ネット上の消費者行動の特徴、および財の有形性による消費者行動の差異解明などの研究を行ってきました。

最近では、在宅ケアサービス需要の肥大化、「介護離職」、「介護難民」の急増などの顕著化となってきた社会問題に対して、シェアリング・エコノミーの果たすべき役割とは何でしょうか。具体的には、技術受容モデルの援用によって、マッチングプラットフォームを介して要介護者とヘルパー間の需給関係、およびその利用傾向に影響を及ぼす各内外要因を明らかにすることを目標に研究を進めていきます。

研究者として、未だに未熟者ですが、経済社会学会において、経済活動の本質とメカニズムの解明に接近する様々な知見を活かさせていただきたく存じます。今後は会員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

【樋口 友紀】

このたび経済社会学会に入会させていただきます、摂南大学経営学部の樋口友紀と申します。

これまで、時系列データを用いた需要予測や、消費者の購買行動推移に関する分析などを主におこなってまいりました。一方で、勤務先

では専門分野の科目の他に社会調査関連科目を受け持つこととなり、多変量解析や実習科目などを担当しております。これをきっかけとして社会調査の実施方法や様々な調査データの分析方法などについて学ぶと共に、個票データを収集・分析する機会もいただきました。近年は、めまぐるしく変化する学習のかたちに対する大学生の適応のようすについて明らかにするなど、学生調査データを用いた研究などにも取り組んでおります。

今後こうした領域の研究も進めていきたいと考えていたところ、経済社会学会をご紹介いただき、入会させていただくことに致しました。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

議事録

東部部会役員会議事録

日時：2022年5月14日（土）13:00～14:30

場所：第一工科大学上野キャンパス

本館4階141教室

<議題>

1. 新入会員承認の件

上沼理事から、新たな入会申込書は届いていないことが報告された。

2. 第58回全国大会の件

水原理事から、大会テーマ「科学技術と経済社会」、開催日（2022年9月3日・4日）、開催方法（対面形式を予定）、エントリー状況、記念講演会（高田保馬賞受賞の間々田先生）の予定について報告があった。全体内容の原案が確定した後、プログラム委員会、東西合同役員会で決めることになった。共通論題の報告候補について意見が交わされ、報告者の大学院生は唐澤基金の対象候補となること

確認された。英語での報告希望者（準共通論題）について、年報への投稿論文の掲載を認めるか、過去の状況を確認することになった。

3. EBSCO 学術データベースの件

鈴木（康）理事から、EBSCOへの論文収録について前回の役員会で検討課題とされた著作権の帰属、費用負担の有無、効果、複数のオンラインデータベースに論文を収録することの問題点、効果について説明があった。今後は運用の範囲を確認した上で、6月の東西合同役員会で議題とすることになった。

4. 東部本部事務局の移転の件

上沼理事から、移転に関する説明があり、東部として移転を承認することになった。6月の東西合同役員会では次期担当校の候補として東京通信大学（廣瀬先生）を挙げることになった。

5. 学会ホームページ運営の件

廣瀬理事より、現在早稲田大学のウェブサービスによる学会ホームページの運営から、外部ホスティングサービス企業のサーバースペース利用による移管について説明があり、外部サーバーでの運営が承認された。利用者については原案を中心に検討することになった。

6. 学会会長選出および役員人事手続きの件

間々田理事から、学会会長は東西合同役員会開催前の選出理事会で決めるのではなく、事前に話し合いの場を設けることが提起された。これまで直前に決めるなど選出過程に不透明なところがあり、役員人事手続き含めて選出方法（内規）について、今後検討することになった。なお東部の次期役員新体制については、この役員会終了後の選出理事予定者の集まり（選出理事予定者会議）で話し合いがされることが報告された。

7. 会務報告

(1) 年報

鈴木(康)理事から、年報 44 号の編集について、5 月初旬に査読結果を送付したこと、査読付の投稿論文 15 本のうち掲載は 9 本、書評の掲載は 5 本であることなどが報告された。

(2) ニューズレター

宮垣理事から、71 号は 2 月に予定通り発行されたこと、次号 72 号は発行に向けて準備中で、関係者に対して原稿依頼をする予定であることが報告された（研究休暇中のため総務理事によるメール文の代読）。

(3) 部会

大野理事から、報告者の調整がつかず 5 月の部会が開催されなかったことが報告された（欠席のため総務理事によるメール文の代読）。

(4) 日本経済学会連合

織田理事から、10 月 25 日以降は評議員会が開催されていないが、今年 5 月 30 日に 2022 年度第 1 回評議員会が開催される予定の報告があった。

(5) 社会学系コンソーシアム

恩田理事から、1 月 29 日に第 14 回評議員会が開催され、理事・監事の選出、2021 年度事業報告、22 年度事業計画、21 年度決算、22 年度予算が承認されたことが報告された。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対する理事会声明、またコンソーシアムのホームページで本学会第 58 回全国大会の掲載が紹介された。

(6) 日本学術会議

上沼理事から、「学会名鑑」更新の確認作業、日本学術会議からの各通知（日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ、第 26 回日本学術会議会員候補者の選考方針に係る意見についての意見照会）について報告があった。

(7) 学会ホームページ

廣瀬理事から、学会ホームページにおけるニューズレターの情報掲載について報告があった。

(8) 唐澤基金

宇佐見理事から、ニューズレター 71 号で「唐澤基金」活用のおすすめの情報を出したこともあり、複数名から問い合わせがあったことが報告された。

(9) 本部事務局

上沼理事から、日本経済学会連合の年会費などについて別途資料により説明があった。

8. その他

宇佐見理事から、故川西重忠会員の追悼集『現代日本社会に問う』の刊行について報告があった。

恩田理事から、次回 6 月 18 日の東西合同役員会、合同部会について案内があった。

(恩田、石田)

西部部会役員会議事録

※西部部会役員会は開催時期が当初よりずれ込みましたので、議事録については次号ニューズレターに掲載させていただきます。

東西合同役員会議事録

日時：2022 年 6 月 18 日（土）14:40～16:40

場所：東京福祉大学名古屋キャンパス

10 号館 301 教室

<議題>

1. 新入会員承認の件

恩田理事から以下の 3 名の新入会員の報告があり承認された。

・木幡三津久（コハタミツヒサ）宇都宮大学大学院

- ・陳森（チンシン）東京福祉大学
- ・樋口友紀（ヒグチユキ）撰南大学

2. 会費未納による会員資格喪失の件

鈴木（純）理事と村上理事から、会費未納者 21 名（未納期間 4～7 年度まで）について報告があり、会員数の減少にも配慮しながら、今後住所不明者などに対して何らかの対応をする必要性が指摘された。

3. 第 58 回全国大会プログラムの件

水原理事から、プログラム全体の構成と注意事項について報告があり、報告者、討論者、座長の調整がされた。

4. EBSCO 学術データベース参加の件

鈴木（康）理事から、既に東部・西部で加入の了承を得ているが、具体的な作業などについては今後詳細をつめる説明があった。

5. 東部本部事務局移転の件

恩田理事および廣瀬理事から、早稲田大学から東京通信大学への東部本部事務局の移転について報告がされた承された。

6. 学会ホームページ運営の件

廣瀬理事から、現在早稲田大学のウェブサービスで運営している学会ホームページを、安全面を考慮して外部ホスティングサービス企業のサーバースペースを利用することについて提案があり了承された。なお今後独自ドメインの取得、サーバーの管理など費用対効果を検討し、ホスティング業者を決める報告があった。

7. 会務報告

(1) 年報

鈴木（康）理事から、44 号について 6 月 30 日に現代書館にデータ移管、9 月に発刊という進捗状況が報告された。投稿論文 15 本（大

会報告 9 本、自由投稿 6 本）のうち 9 本が採択され、書評は 5 本掲載されることが報告された。

(2) ニュースレター

豊山理事から、72 号について進捗状況の報告があった。

(3) 部会

東部の大野理事から部会が開催されなかったこと、西部の小島理事から 2021 年 12 月 18 日、2022 年 7 月 2 日に同志社大学で開催されたことが報告された。

(4) 日本経済学会連合

織田理事から、2021 年 5 月 30 日 18:00 よりオンラインで 2022 年度第一回評議員会が開催され、報告事項として第 1・2 次補助申請審査報告、第 6 回アカデミック・フォーラム開催、創設 70 周年記念事業、協議事項として 2021 年度会計監査報告、2022 年度予算案、web 出版「21 世紀における持続可能な経済社会の創造に向けて」の報告があった。

(5) 社会学系コンソーシアム

恩田理事から、間々田委員とともにオンラインによる第 14 回評議員会に参加し、2021 年度の事業報告、事業計画、決算報告、21 年度予算案の承認について報告がされた。

(6) 日本学術会議

恩田理事から、事前に送付された上沼理事の資料を基に、日本学術会議「学会名鑑」の更新と登録情報の確認、「日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ」について（会長メッセージ）の役員への回覧、第 26 期日本学術会議会員候補者の選考方針（原案）に係る意見照会、若手研究者をとりまく評価に関する意識調査（web アンケート）などの報告があった。

(7) 学会ホームページ

廣瀬理事から、全国大会のウェブサイトの作成、HP の修正などの報告がされた。

(8) 唐澤基金

宇佐見理事から、基金の活用の仕方と今後

の対応などについて、また今回の大会では 2 名が基金の対象者になる報告があった。

(9) 本部事務局

東部の恩田理事から、上沼理事より事前に送付された資料を基に報告があった。西部の村上理事から、西部事務局の移転に伴う名簿管理について報告がされた。(恩田、古市)

日本経済学会連合評議員会報告

日本経済学会連合の 2022 年度第 1 回評議員会は、5 月 30 日 18 時より、リモート会議で開催された。

報告事項としては、連合ニュース No.58 の発行、2022 年度第 1～2 次補助申請審査の結果として 4 学会に補助支給が決定されたこと、第 6 回アカデミック・フォーラム「東アジアにおける企業間国際分業 —自動車産業の EV 化をめぐる—」が、2022 年 3 月 5 日(土)にオンライン開催で実施されたこと、創設 70 周年記念事業として、Web 出版については 11 学会の投稿が掲載され、YouTube「アカデミック・チャンネル」では 25 コンテンツが公開中であることが報告された。

協議事項としては、2021 年度会計監査報告が承認され、2022 年度予算案についても承認された。また、Web 出版「21 世紀における持続可能な経済社会の創造に向けて」を、周年事業から継続事業に移行することに伴う誌名変更について、新誌名を、「エコノミックス&ビジネス・フォーラム」とすることが承認された。

(織田輝哉)

ホームページのご案内

全国大会の開催概要や年報・ニューズレター

のバックナンバーなど、学会活動の情報を随時掲載しています。あわせてご活用下さい。

<https://www.waseda.jp/assoc-soes/>

また、前記の学会ホームページとは別に、今年度で開催する全国大会のホームページを作成しました。開催プログラムの詳細や報告者・参加者に向けた最新情報などを大会事務局が随時掲載してまいりますので、こちらもあわせてご覧下さい。

<https://sites.google.com/view/soes2022/>

(廣瀬毅士)

会員異動等

【新入会員】

木幡 三津久 宇都宮大学 (大学院)
近現代史における「内発」的思考による発展
(推薦) 上沼正明・廣瀬毅士

陳 森 東京福祉大学
在宅ケアサービス 消費者行動論
(推薦) 伊東真理子・近藤重晴

樋口 友紀 摂南大学
マーケティングサイエンス、時系列解析
(推薦) 山本圭三・野々村元希

【所属変更】

今池 康人 福井県立大学 経済学部
恩田 守雄 筑波学院大学 経営情報学部
徐 天堯 愛知大学 国際中国学研究センター
田中 人 山陽学園大学 地域マネジメント学部
西尾 雄志 近畿大学 総合社会学部
西部 忠 専修大学 経済学部
百木 漠 関西大学 法学部

経済社会学会年報 自由投稿論文募集

〒110-0005 東京都台東区上野 7-7-4

第一工業大学工学部鈴木研究室内

経済社会学会年報編集委員会事務局宛

TEL : 03-5246-4733 E-mail : editsoes@ueno.daiichi-koudai.ac.jp

・ 東部本部事務局

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学社会科学部 上沼正明研究室

E-Mail : kaminuma@waseda.jp

・ 西部本部事務局

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1-25

名古屋学院大学現代社会学部

村上寿来研究室

Tel. 052-678-4078 (村上研究室)

Tel. 052-678-4089 (総合研究所事務局)

Fax. 052-682-6812

E-Mail : murakami@ngu.ac.jp

経済社会学会 The Society of Economic Sociology

発行日 : 2022 年 7 月 31 日

発行所 : 〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号

名古屋学院大学現代社会学部内 経済社会学会 西部本部事務局

TEL/FAX : 052-678-4078 (村上寿来) E-Mail : murakami@ngu.ac.jp

WEB : <https://www.waseda.jp/assoc-soes/>

発行人 : 小林甲一

編集人 : 宮垣元・小田中悠 (東部), 豊山宗洋・山本圭三・猿渡壮 (西部)

印刷所 : (株) 田中プリント TEL : 075-343-0006